

2023年9月8日滋賀県湖南市平松付近で観察した植物

作：岡田弘

ウツクシマツ（美し松）マツ科マツ属

名前の由来＝平安時代初期、体調を崩した藤原頼平という公家が養生のため平松の山麓に家を建て静養していた、或る日松林のある山の方角から美しい娘たちが現れ、自分は京の松尾大明神（松尾大社）に使える者である、あなた様をお護りするように大明神様から仰せつかり参上しました、娘たちは美しい声で歌い踊り松の間を戯れていた、ふと気が付くと娘たちの姿はなく、眼の前全ての松が見たことも無いような美しい姿に変わっていた、感嘆した頼平が天皇に伝えると朝廷から勅使として大納言が派遣され、松の木を見た大納言がその美しさに「美し松」と名づけたと言う。マツとは「神の宿るのを待つ」「神を祀る」が転じて等諸説ある。ウツクシマツの自生地1.89haが1921年に国の天然記念物に指定された、ウツクシマツもタギョウショウもはっきりした区分は無く、似たマツが岡山、長野、岩手にもあり町や市の天然記念物に指定されている、名神SA菩提寺に大きなウツクシマツが植わっています。



平松のウツクシマ



新宿御苑のタギョウ
ショウ

ヤブラン（藪欄）キジカクシ科ともユリ科とも？ヤブラン属＊花期＝8～10月

名前の由来＝諸説ある、細長くその先に花が身についている様子が中国語の「欄」細長く連なる）に通じている。又、藪の様な暗がりでも咲く花」と言う意味、等々、日本の林の中に自生している常緑多年草、野生種はほとんど濃いグリーン色だが、園芸種として、白、クリーム色など斑入りの物がある。ヤブランよりも葉の細い、コヤブラン、さらに小さいヒメヤブランがある、＊花言葉＝謙虚、隠された心、忍耐。



葉に斑入り

イヌコウジュ（犬香需）シソ科イヌコウジュ属＊花期9～10月

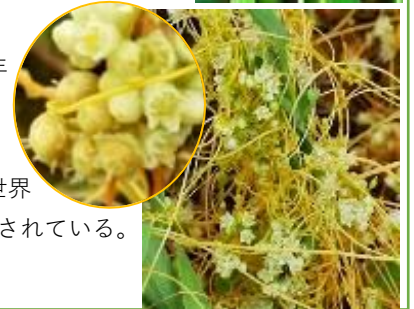
名前の由来＝犬がくんと匂いを嗅ぎたくなるようなハーブっぽい香りがするから。

＊花言葉＝真実、魅力、幸運、山野の林縁や道端に普通に見られる一年草、高さは20＝70cm位になり、茎は直立して四角形で、しばしば紅紫色を帯びる、茎は下向きに曲がった毛が密生する、葉は対生、鈍い鋸歯がある、花は秋、枝先に淡紫色の唇形花を沢山つける、全草を浴湯料にします。



アメリカネナシカズラ（亜米利加根無葛）ヒルガオ科ネナシカズラ属

北アメリカ原産の帰化植物、牧草などに混じって侵入したものと思われる、日本では1970年東京府中市多摩川付近で初めて確認された、現在では北海道～九州まで全国に分布拡大。1年草の寄生植物で長さは50cm位、吸盤で宿主に吸着して養分を得て成長、ナスやジャガイモ等畑作野菜に吸着すると収穫に大きな被害が出る。葉緑素を持たず葉は退化してない、世界に約170種類あり日本では4種類が自生している。外来生物法により要注意外来生物に指定されている。＊花期＝8～10月に白い花を咲かせる



タカサブロウ(高三郎) キク科タカサブロウ属＊花期8～9月

名前の由体＝明確ではないが一説によると、貧しくて筆記用具が買えなかった高三郎がこの茎の汁で文字を書いていたのでその名前が付いたと言われる。水田の畦や溝など湿気の多い所を好み10～60cmになる一年草、茎や葉に短い剛毛が密に生える、葉は対生、花は葉腋や茎先に咲く、周辺に白い舌状花が2列に並ぶ、中央の筒状花も白色。サポニン、タンニン、ビタミンAが豊富で漢方の旱蓮草（カンレンソウ）として腰痛や冷え性、生理不順などにしようされている、昔の医学書にも白髪や白髭まつ毛に塗ると黒くなり髪に良いと記されている。＊花言葉＝いつかきつと。



シマスズメノヒエ（鳥雀の稗）イネ科スズメノヒエ属＊花期＝7～11月

名前の由来＝シマは小笠原諸島で最初発見されたのでシマ、との説と種子に縞があるのでの説がある。スズメノヒエは牧野富太郎が、人に役立たない雀が食べるのによい餌、ヒエであると命名したと。今回も道端に黒い花を多く咲いていた、イネ科花粉のアレルギーの方は大丈夫かと心配したが、この種は風媒花だが花粉の粒が大きいので飛散が少ないようだ、南米原産の多年草で踏まれに強く、逆に翌年は下部を増やし成長するようだ、匍匐枝を持たない草丈50～150cmになる茎は直立又は斜めに伸びる、長い花茎の先に太い穂を少数（3～6個）付ける。、似た仲間に、スズメノヒエ（日本の在来種だがシマスズメノヒエに置き換わり絶滅危惧種のような）最近ではアメリカスズメノヒエがはびこり、オオスズメノヒエ、キシウスズメノヒエ、等がある。

